



発行者  
九州旅客鉄道労働組合  
中央本部筑豊支部

発行責任者 川畑 哲実  
編集責任者 熊本 純

直方市山部 2 8 3 - 1  
NTT (0949) 28-2334  
J R (091) 8223

## 直方運輸分会定期大会

# 筑豊支部の主力分会としての役割を果たす 入江政清執行委員長(再選)をはじめとする新執行体制を確立

10月7日、筑豊支部の先陣を切って、直方運輸分会が、支部事務所定期大会を開き、職場の実態を隅々まで点検することで、労働組合としてのチェック機能を発揮し、課題解決へ向けて精力的に取り組むことを柱とする新年度の運動方針を満場一致で決定した。(写真Ⅱ)また、役員改選では、入江政清執行委員長が再選し、書記長に藤井健史氏を選出。会計監査員2人を含む総勢20人の新執行体制を確立した。



定期大会は、戸高秀博代表員を議長に選出し、議事が進められた。

冒頭、分会執行委員会を代表して入江委員長が挨拶に立ち、昨年度の各種取り組みへの理解と協力に対して謝辞を述べたうえで、今年度の主な効率化施策等で計画されている筑豊本線・篠栗線での4両ワンマン運転の実施について「直方運輸分会にとって死活問題であり、ホーム監視車上装置の不具合についても未だ改善されていない。そのような状況の中で今次施策を実施することは、言語道断であり、ホーム監視車上装置の不具合が抜本的に改善されたとしても、今次施策にあたっての課題が全て解決したわけではなく、中央本部は現場実態を一番熟知している皆さんの声を最大限反映した取り組みを行っていく」との決意を示した。

その後、執行部より一般活動経過、2014年度決算、北村北九州地区統括部長も「昨年度、当初計画されていた筑豊本線・篠栗線での4両ワンマン運転の実施が見送られたのは、直方運輸分会が地道に取り組んでいただいたホーム監視車上装置の不具合調査の成果と言っても過言ではなく深く御礼を申し上げます。たとえ、ホーム監視車上装置の不具合が抜本的に改善されたとしても、今次施策にあたっての課題が全て解決したわけではなく、中央本部は現場実態を一番熟知している皆さんの声を最大限反映した取り組みを行っていく」との決意を示した。

役職名	氏名	職場
執行委員長	入江 政清	直方運輸センター
副執行委員長	和田 敏一	直方運輸センター
副執行委員長	山口 保則	直方運輸センター
書記長	藤井 健史	直方運輸センター

会計監査員について報告を行い、2015年度運動方針(案)、予算(案)を提起。(案)からの発言により運動方針(案)を補強したうえで、全ての議案が満場一致で採択された。特に、筑豊本線・篠栗線での4両ワンマン運転の実施については、最重要課題として中央本部・支部と連携した取り組みを行っていくことを確認、職場の実態を隅々まで点検することで、労働組合としてのチェック機能を発揮し、課題解決へ向けて精力的に取り組むことを新年度の運動の柱に据えた。

## 第一次総対話集会を開催



筑豊支部は、10月13、14、21日に、支部事務所及びコミュニティのおがたで第一次総対話集会を開催した。(=写真=)

総対話集会は、中央本部役員と組合員が直接対話できる貴重な場であることから、多くの組合員の参加を要請していたが、参加率は27%と目標にしていた30%には届かなかった。

第二次総対話集会は、来年2～3月にかけて開催される予定であり、皆さんの声をJR九州労組の運動に反映させるため、多くの組合員の参加を要請する。

## ITF国際行動週間 田川後藤寺駅でチラシ配布行動を展開

筑豊支部は10月7日、国際運輸労連(ITF)「国際行動週間」の取り組みとして、田川後藤寺駅でチラシ配布行動を行い、安全最優先の企業風土確立や地域生活に密着した鉄道への取り組みを示し、環境にやさしい鉄道の利用と地方部路線の維持を利用者や市民に訴えた。

当日は、支部・直方運輸分会の役員6人で、利用者や市民へ環境にや

### 中央本部支部間交流ゴルフ大会のお知らせ

- 開催日時  
2015年12月1日(火) 9時37分スタート
- 開催場所  
JR内野カントリークラブ
- プレー代金  
8,056円(税込) 食事代等は別
- 参加申し込み  
2015年11月25日(水) 締切  
※ 先着順とし、応募人員に達した場合には締め切ります!  
詳しくは、支部までお尋ねください